

第1 Yの罪責

1 監禁罪の共同正犯（Yの行為①）

(1) 第1区間の走行 15

← 第1区間の走行を中心に検討します（pp. 188-189）。

ア 人

・ 錯誤に基づく同意、自由の意義

イ 監禁

ウ 故意

エ 共同正犯（後述）

(2) 第2区間の走行 5

ア 人

イ 監禁

ウ 故意

エ 共同正犯（後述）

2 証拠隠滅罪（Yの行為①） 10

← 犯人隠避罪について検討することも考えられます（pp. 189-190）。

(1) 他人の刑事事件に関する証拠

(2) 隠滅

(3) 故意

3 偽計業務妨害罪（Yの行為②） 20

(1) 業務

・ 公務と業務

(2) 偽計

(3) 妨害

(4) 故意

← 業務について詳しく検討します。客体を具体的に特定することが重要になります（pp. 190-191）。

4 罪数 5

第2 Xの罪責

1 監禁罪の共同正犯（Yの行為①）

共同正犯 12

- ・ 共謀
- ・ 共謀に基づく実行行為

2 証拠隠滅罪の教唆犯、幫助犯（Xの行為①）

..... 30

(1) 犯人による証拠隠滅の共犯

- ・ 期待可能性

(2) 関与形式

- ・ 教唆犯
- ・ 幫助犯

3 罪数 3

← 本問では、関与形式に注意が必要です（pp. 193-194）。共同正犯の成立を認める余地もあります。